

宮崎県立看護大学大学院看護学研究科 平成22年度修士論文要旨

看護師のかかわりを患者の位置 から評価するための実践的指針

—自己の看護過程の分析を通して—

後藤道子（基礎看護学）

【キーワード】 看護の目的、看護の評価、看護過程、
生活過程、生命力

本研究の目的は、日々の看護過程において、看護師のかかわりを患者の位置から評価するための実践的指針を得ることである。

研究対象は、患者の位置からかかわりの意味をみだせていない自己の看護過程である。

研究方法は、日々の看護実践を記録したフィールドノートをもとに患者にとって重要な局面と思われ、かつ患者の位置からかかわりの意味をみだせなかった場面を選択し、プロセスレコードに再構成し研究素材とした。対象特性に照らして、関わりの意味と看護師の認識と表現の特徴をとりだした。次に、その特徴は患者にとってどのような意味をもつのか検討し、患者にとってどのような看護であったのか評価するための視点をとりだした。視点の共通性と相異性を検討し、看護師のかかわりを患者の位置から評価するためのポイントをとりにだした。そのポイントをもとに＜生命力は自然力と社会力が統合されたものと考え、その人の生命力を高めるよう生活過程をととのえているか＞＜その人は社会の中でつくりつくられた存在であると考えているか＞＜その人の認識が生活をつくりだすと考えているか＞という観点から考察し、以下7項目の看護師のかかわりを患者の位置から評価するための実践的指針を抽出することができた。

1. 治療だけに頼るのではなく、患者とともに回復

しようとする力を共有し高めようとかかわっているか

2. その時々現象に対応するだけでなく、患者とともに病気と回復しようとする力のつながりをイメージしながら、回復しようとする力に働きかけているか

3. 症状を体の側面だけからみるのではなく、患者がつくりだしてきた24時間の生活のなかで積み重なった消耗の結果と捉え、かかわっているか

4. 生活のなかで形成された患者なりの健康に対する価値観は、回復しようとする力にどのような影響を及ぼすのかと判断しているか

5. 患者の位置から問題を捉えられるよう、患者の心と体とこれまでの生活を追体験しようとしているか

6. 患者の表現や症状の改善という結果だけに着目するのではなく、患者がより健康な生活をつくりだすイメージができるよう確認しながら、具体的な手段をともに考えているか

7. 看護師が描いた目標ではなく、患者の生きる力・生活する力・人とかかわる力・支える力がうまく働いた状態を目標に、患者がより健康な生活をつくりだしていけるよう支えているか